

保育計画成果報告書

法人名	株式会社アンジェリカ
施設名	アンジェリカ月島保育園
報告者（役職）	浜田 理恵（ 園長 ）
住所・連絡先	東京都中央区月島 2-13-5
	☎ 03-6204-9344
	E-mail tukishima@angelica-nsy.net

○タイトル（保育計画）

和太鼓を通して心を育み、地域への繋がりを持つ

○主な助成備品

平太鼓

1. 保育計画策定の目的

開園初年度の年長児は、1名しかおりませんでした。日頃は、4歳児と合同で過ごす中で、5歳児としての活動や発達の保障を考えたときに、考えたのが「和太鼓」の取り組みでした。

その子にとって初めて触れる楽器であり、全身で感じられる音の響きを感じ心躍らせていました。始めは腕の力も弱く姿勢が崩れたり、左手右手の対応動作が出来ずにいましたが、日々担任と二人で練習する中で、よい姿勢で打つと音の響きも変わること気が付き、難しいリズムにチャレンジしたりと練習態度が意欲的になっていきました。

練習開始当初は、すぐに疲れたと言っていた身体がしっかりとし心と身体の両面で大きく成長がみられました。

年下の子ども達からも憧れられる5歳児の姿を見て、この太鼓の取り組みを連続的に保育の中で実現させたいと強く思うようになりました。

そこで、太鼓を通して子ども達のどこを育てていきたいのかを考え、以下の目的を設定することにしました。

1. 日本の文化を知る
2. 礼儀作法を学ぶ
3. 身体発達の充実
4. 人格形成の充実
5. 集団の楽しさと創意工夫の喜び

また、地域では昔から「佃太鼓」が有名です。月島地区は古い街ですが、近年は高層マンションが建ち、新しい世代の住民が増加している地域でもあります。そして、保育園の卒園児が通う学区内に「佃太鼓」があり、町会でも佃太鼓を守っていきたくと話されています。当園で育った子ども達が、いずれ地域の太鼓の伝承者になってほしいと願い、「和太鼓を通して心を育み、地域への繋がりを持つ」という保育計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

(1) 太鼓の練習

集団では初めての導入となることから、太鼓の先生に来てもらうことにしました。

ばちの握り方や礼儀作法、姿勢、打ち方などを基本から教えていただきました。上手にできる子を見本にしながら「私も出来るようになりたい」との気持ちが芽生えてくるようになりました。



始めは「打つ」ことに夢中になっていた子ども達でしたが、回数を重ねるごとに、周りとの協調して奏でることが出来るようになりました。

フォームがしっかりしてくると共にリズムを合わせて打つ楽しさを感じ始め、それが「心を合わせて打つ」という姿にみえてきました。

(2) 太鼓の発表

練習を楽しんだ子供たちに、具体的に発表の機会を設けました。

一つ目は「夏祭り」です。ここで子ども達は、盆踊りの曲に合わせて打つ経験をしました。自分たちが打つ音に合わせて、保育園のお友達が輪になり盆踊りで楽しむ様子に、心から喜びました。

二つ目は「運動会」です。夏祭りでは、スペースの関係から2グループに分かれての演奏となりましたが、運動会ではクラス全員で演奏することにしました。広い体育館の中を入場から演奏、退場までを演技として披露ができました。入場や挨拶なども全て子ども達が行いました。子ども達は一体感を感じ、また大きな達成感を持ちました。

三つ目は「発表会」です。運動会で一体感を感じた子ども達に、次なるステップを感じてほしいと思い、表現の豊かさにねらいをおきました。だんだん強く・だんだん弱くというような音の強弱を表現する難しさの中で身体と音の一致を子ども達は感じる事ができました。



(3) 地域とのかかわり

学区内の佃中学校では、太鼓クラブがあり佃太鼓に取り組んでいます。

自分たち以外の演奏を見たことがない園児たちですので、太鼓クラブにお願いし実際に見学させていただくことにしました。大きなお兄さん・お姉さんの迫力に息をのむほどの真剣さでした。夏祭りの前と発表会の前に訪問させていただきましたが、実際に間近に見ることで「自分たちも頑張る」という声が聞かれました。

また、園の地域開放行事として「夏祭り」「運動会」は地域の方もご招待しています。園児たちの真剣に取り組む様子を見ていただき、また佃太鼓との繋がりなども感じていただけるように話をさせていただきました。

3. その成果と評価

(1) 太鼓について

アンジェリカ保育園では「心を育てる」ということを保育方針としています。

太鼓に関しては、心だけでなく身体の面も育っていくと考え、身体と心の両面の成長を期待していました。

太鼓は一人では、演奏が出来ません。自分の音を力強く響かせることも勿論大事ですが、周りとの協調することで初めて演奏となります。子ども達は、毎日の繰り返しの中で自然に周りとの調和を感じ取っていくようでした。友達に合わせることを知り、その心地よさを感じ取っていくようでした。身体の小さな体力のない子どもであっても、その一体感から根気良さがつき、あきらめずに取り組む粘り強さが培われていくように見受けられました。中には、対応動作がうまくいかず苦勞する子どももいました。その様子に気が付いた周りの子ども達が自然と支援するようにもなりました。物事に得手不得手はあるものですが、太鼓は練習で誰でも上達していくものだと思われ、自分自身で出来たことがわかり達成感から自信につながっていく様子が見えました。

心の部分では、仲間意識が強まりお互いを思いやる部分が育ったと思います。

礼儀に関しても人への感謝の気持ちが強まったと感じます。

乳児にとっても太鼓の音は心地よく、園内に太鼓の音が響きわたっても驚く様子もありませんでした。母親の胎内で聞いていた鼓動に近いからこそ、どんな年齢の子どもたちにとっても心地よい音なのだと思います。

(2) 地域について

太鼓の取り組みから、佃中学校太鼓クラブと交流が持てるようになりました。子どもたちにとって懂れる存在ができました。未来にわたっては、卒園児がまたそこで関わりをもっていくのではと予想されます。長い時間はかかりますが、そのようにして文化の伝承になっていってほしいと願っています。

また、卒園児たちが地域の中で佃太鼓を聞いたときに、自分たちも太鼓に触れてきたんだという誇りと懐かしさをもって歩んでほしいと願います。

太鼓クラブとの関わりから、中学校から職場体験として保育園に生徒がくることになりました。この様に様々な関わりが広がるうれしさも感じています。

4. 今後の課題と展望

(1) 太鼓について

まずは継続的に行うことを目標にしています。1年目であったということで、子ども達と太鼓で関わる職員も固定されていました。基礎固めの後には、様々な職員が太鼓に触れるようにしていきたいと思います。時間はかかると思いますが、園全体で太鼓の取り組みを盛り上げていくようにしていきます。

現在の4歳児は既に、自分たちも年長になったら太鼓ができると期待感をもっています。この子ども達の期待感が原動力になることは間違いありません。

この様に園の中に「伝統」として継承されるようにして参ります。

(2) 地域について

太鼓を通しての地域の関わりについては、まだ始まったばかりと考えています。

太鼓クラブへの訪問だけでなく、園の方へも来ていただいたりと交流を深めていきたいと考えています。

地域交流行事等については、引き続き子育て支援の一環として誘い掛けをしていきます。しかし、町内の行事については小さな子供が参加できるものがないのが現状です。この点に関しては、町会とも連携を図りながら模索していきます。

以上